



赤い羽根共同募金「寄付つき商品 地域支援プロジェクト」 新規登録企業紹介

登録企業：JUN.かわもと整骨院 【倉敷市水島東常盤町7-4 ☎ 086-448-0323】

登録名称：『赤い羽根 心と身体ぽっかぽかプロジェクト』

内 容：ひざサポーターなどJUN.かわもと整骨院で販売している対象商品の売り上げの1%を倉敷市共同募金委員会にご寄附いただきます。

当院が販売するひざサポーターなどの対象商品をご購入いただくことにより、お客様が心も身体も「ぽっかぽか」になり、楽しい日常生活を送っていただくとともに、購入金額の一部が地域の福祉活動に役立てられ、温かい地域への一助となることを願っています。

“優しい気持ちのあふれる温かい町”を目指して、地域福祉活動の充実につながればうれしいです。



(右)JUN.かわもと整骨院 院長 川本 淳一氏
(左)倉敷市社協 副会長 大野 治

倉敷市の地域支援プロジェクトへの登録団体・企業では
20番目の登録となります。



このプロジェクトは、企業などが寄付つき商品やサービスをつくり、売り上げの一部を赤い羽根共同募金へ寄附することで地域社会に貢献するものです。

倉敷市共同募金委員会では本プロジェクトの登録企業を大募集しています。ご相談・お問い合わせをお待ちしております。

お問い合わせ先：倉敷市共同募金委員会（倉敷市社協） ☎ 086-434-3301



福祉まちづくり自動販売機設置者募集中です！

「福祉まちづくり自動販売機」の売り上げの一部が倉敷市社協の実施する地域福祉活動に活かされ、社会貢献につながります。

自動販売機の新たな設置、または既存の自動販売機の契約変更をお考えの個人・企業・団体の皆様、ぜひご検討ください。



編集・発行 社会福祉法人 倉敷市社会福祉協議会

事業所名	住所・電話等				施設名	休館日
総務課・地域福祉課	〒710-0834	倉敷市笹沖180番地	TEL 086-434-3301	FAX 086-434-3357	くらしき健康福祉 プラザ3階	毎週月曜日 祝日、年末年始
倉敷ボランティアセンター	〒710-0834	倉敷市笹沖180番地	TEL 086-434-3350	FAX 086-434-3357		
倉敷結婚相談所	〒710-0055	倉敷市阿知1-7-2-803	TEL 086-427-0667	FAX 086-427-0670		
水島事務所	〒712-8062	倉敷市水島北幸町1-1	TEL 086-446-1900	FAX 086-440-0154	水島支所3階	毎週土・日曜日 祝日、年末年始
児島事務所	〒711-0912	倉敷市児島小川町3681-3	TEL 086-473-1128	FAX 086-470-0054	児島支所4階	
玉島事務所	〒713-8121	倉敷市玉島阿賀崎1丁目1-1	TEL 086-522-8137	FAX 086-523-0054	玉島支所2階	
真備事務所	〒710-1301	倉敷市真備町箭田1161-1	TEL 086-698-4883	FAX 086-698-9622	真備保健福祉会館 1階	
真備支え合いセンター	〒710-1301	倉敷市真備町箭田1161-1	TEL 086-698-5115	FAX 086-698-9622		
船穂福祉センター	〒710-0261	倉敷市船穂町船穂1861-1	TEL 086-552-5200	FAX 086-552-9030	船穂町高齢者 福祉センター	毎週日曜日 祝日、年末年始

本広報紙の発行には共同募金の配分金の一部を使用させていただいております。

～地域でつながり だれもが 安全・安心に暮らしていける 支え合いのまち～

くらしき社協だより105号 令和7年 秋号

ほっと社協！ Vol.105

主な内容

- ・令和6年度 倉敷市社会福祉協議会 事業・決算報告
- ・地区社会福祉協議会の活動紹介
- ・活躍している個人の紹介「輝く人みーつけた」
- ・【特集】地域を支える赤い羽根共同募金
- ・「話し合い」から広がる「支え合い」のまちづくり
- ・赤い羽根共同募金「寄付つき商品 地域支援プロジェクト」新規登録者様紹介 など



写真：三宝認定こども園（マーチングドラムの整備）

赤い羽根共同募金の福祉施設配分・備品整理事業は、子ども達や障がい者等が地域で活躍する活動に役立てられています

編集・発行 社会福祉法人 倉敷市社会福祉協議会 ホームページ：<https://kurashikisyakyo.or.jp>



令和 6 年度 倉敷市社会福祉協議会 事業・決算報告

① 公私協働事業 244,793,884 円

▷ 社協会費、寄附金、共同募金配分金、市補助金等により実施する事業

- ◆ 広報活動事業
- ◆ 地区社協活動・団体育成事業
- ◆ 福祉講座事業
- ◆ 法人後見事業
- ◆ 福祉機器貸出事業
- ◆ 歳末たすけあい配分事業
- ◆ 福祉ボランティア育成事業 など

② 受託事業 183,636,468 円

▷ 県社協及び市受託事業

- ◆ こども若者支援事業
- ◆ 相談支援体制強化推進事業
- ◆ 地域づくり事業
- ◆ 給食サービス事業
- ◆ 生活支援コーディネーター配置事業
- ◆ 介護支援サポーター養成事業
- ◆ 日常生活自立支援事業
- ◆ 重層的支援体制整備事業
- ◆ 地域共助型ボランティア育成事業（夏のボランティア体験事業）
- ◆ 地域包括支援センター事業 など

③ 自主事業 91,651,257 円

▷ 介護保険関連事業

- ◆ 居宅介護支援事業
- ◆ 通所介護事業
- ◆ 訪問介護事業

④ 市指定管理事業 22,160,715 円

▷ 市から指定管理者として指定を受けて実施する事業

- ◆ 高齢者福祉センター事業

⑤ 収益事業 11,840,104 円

▷ 福祉事業に使うことを目的に実施している事業

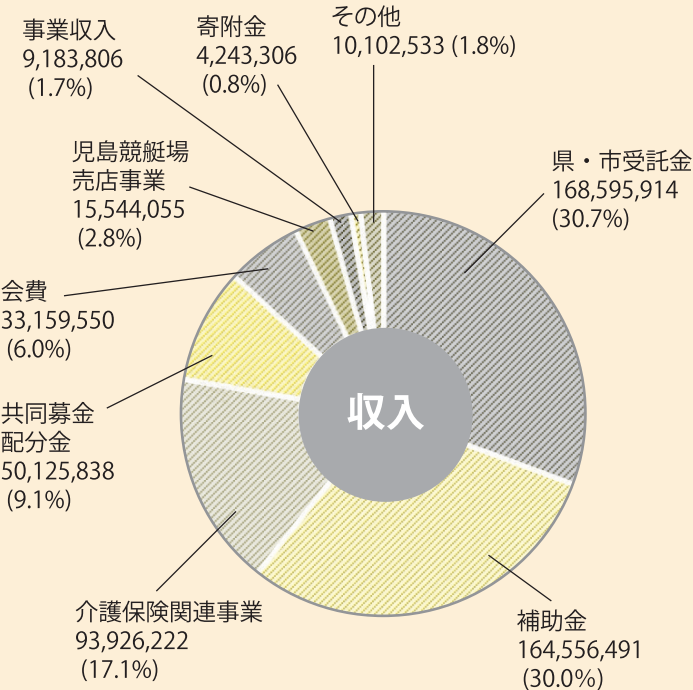
- ◆ 競艇場売店事業

* 閲覧できます *

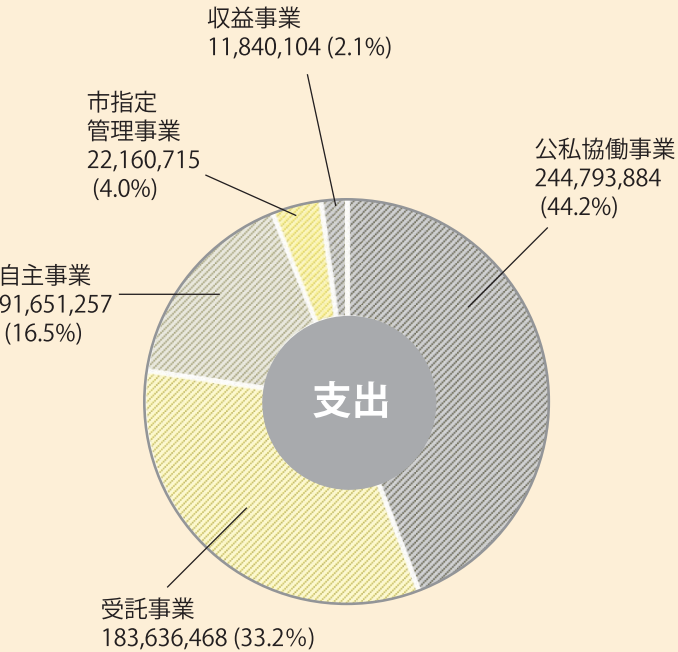
事業報告や決算書は
倉敷市社協のホームページで
閲覧できます。



【決算】収入 549,437,715 円



【決算】支出 554,082,428 円



福祉のまちづくりを支える 賛助会員名簿

(五十音順、敬称略)

令和7年3月1日から令和7年6月7日までに賛助会費を納入いただいた皆様を掲載しています。ご協力ありがとうございます。

【倉敷】(株)暁建築設計事務所、浅原桃花園居宅介護支援事業所、あさひ園、旭メンテナンス工業(株)、あしたか保育園、郁青会、(有)石原美建、is.Hunt(株)、イマイクリニック、うえむら歯科医院上村勝人、うちだ眼科医院、(株)江口電機、岡山県観光企業(株)岡山ゴルフ倶楽部、(株)岡山システムサービス、小川ミシン(株)、(株)小野幸建設、笠岡信用組合倉敷支店、笠岡信用組合中庄支店、カモ井食品工業(株)、駕龍寺、観龍寺、木村耳鼻咽喉科、共和運輸(株)、(株)クラカン、倉敷北病院、(一社)倉敷歯科医師会、倉敷市倉敷北部高齢者支援サブセンター、(公社)倉敷市シルバー人材センター、倉敷自動車学校、倉敷市特養連絡協議会、(公社)倉敷市民間保育所協議会、倉敷商店街振興連盟、倉敷製帽(株)、倉敷タクシー(株)、倉敷地区民生委員児童委員協議会、倉敷中央病院、(福)倉敷にじの里、(福)倉敷福祉事業会昭和保育園、倉敷油類販売(協組)、(株)クラボウドライビングスクール、グループホーム愛、(宗)極楽寺、小谷かなりや認定こども園、サーンガス共和(株)、サイトー印刷(株)、(株)阜月断熱、(株)佐和測量コンサルタント、三和保育園、(税)シナジー、社会事業授産施設倉敷授産場、(医)誠和会(老健)福寿荘、(福)祥求会あしたか保育園、(福)全仁会、十合物産(株)、SONPOケアそんぼの家浜の茶屋、大正林材(株)、(株)大同設備工業、大丸通商(株)、(株)タカトリ、(株)田中商会、(株)ダブルツリー、玉島信用金庫倉敷支店、(株)ディー・エス笹沖、電建工業(株)、(医)天和会松田病院、東陽電気(株)、中島保育園、(福)中野社会福祉協会、(有)ナカムラ、(株)NAVTEC、(有)難波化成、(医)望いわもとクリニック、萩原(株)、濱田弘、東中国スズキ自動車(株)、(司)備中サポートセンター、(特非)ひなたぼっこの会、(株)ピナン、ひまわり認定こども園、(有)福祉の店アイコー、(株)藤木工務店倉敷支店、(有)二葉写真館、遍照院、宝泉寺、(資)星島社団、(特養)ますみ荘、(株)松木自動車整備工場、(有)ミツワ美容室、(医)ミネルヴァクリニックソフィア、(福)めやす箱、(有)ヤマカ組、(福)四ツ葉会、ライズイン(株)ロウズ観光事業所、ローラーカナリア守屋

【水島】(司)小野事務所、(有)亀屋防災、河村食品(株)、宏成綿業(株)、(株)高菱、サトウ機工(株)、三協(株)、三成興業(株)、慈愛幼稚園、(株)シーゲートコーポレーション、新水マリン(株)、(株)シンノウ、親和保育園、砂田船舶(株)、(有)千田ビル、玉島信用金庫水島支店、中国自動車興業(株)、連島東保育園、東洋化学(株)、難波公美子司法書士事務所、(株)日明舎、富士石油(有)、(株)双葉製作所水島支社、(株)松浦モータース、水ノ上災害防具(株)水島営業所、(株)八起電気工事

【玉島】(有)アイ設備工業、赤澤屋(株)、天野産業(株)、(福)アミカル、(株)安藤精工、往田冷凍工業(株)、(福)育和福祉会池畝保育園、石橋運輸(株)、(福)いずみ福祉事業会いずみ乙島保育園、(株)井田組、エラヤ食品工業(株)、圓乗院、円通寺、(株)オカノ、(株)小川商店、(有)小幡梱包製作所、海蔵寺、菊池酒造(株)、倉敷企業(株)、倉敷地区保護司会玉島分区会、倉敷ロード(有)、(有)倉島設計コンサルタント、グループホーム第二朋寿、(株)クレーンピーエムセンター、(有)ケアサービス双葉、(有)興美、(株)コーザイ道路、(株)サカエ、(株)サンタック、(福)祥陽会、高木金属(株)、(有)高倉モータース、ダスキン・ツリーベル、(有)田中電機、(株)田辺商店、(一社)玉島医師会、玉島信用金庫本店、玉島地区民生委員児童委員協議会、玉島地区老人クラブ連合会、中国非破壊検査(株)、当真内科医院、内海工業(株)、中野建築(有)、ナカハラ・インコム(株)、難波プロパン(株)、日電商工(株)、畑本工業(株)、(株)原田文栄堂、(株)樋口、福壽院、富士興業(株)、富士ダイス(株)岡山製造所、(株)富士野、(株)富士モータース、(有)ホンダオート玉島、松岡塗装(株)、マックエンジニアリング(株)、(有)メイビ堂、守永運輸(株)、守屋おさむクリニック、(株)山本材木店、わたなべ歯科クリニック

【船穂】(株)宇野組、(有)エマブル・イシイ、(有)大久保鉄工所、グリーンビレッジ瀬戸内、(有)ケア・ワン、(有)幸福設備工業、(株)佐伯組、三喜(株)ぶどうの家、(有)新日本メンテナンス、(福)たから保育園、(有)トライバル、(株)中桐晒工場、(有)西山青果、(有)ふるーる、宝満寺

【真備】アオエテック(株)、植村歯科、(株)栄鋼社川辺工場、小野建設(株)、カマロまび店、吉備信用金庫川辺支店、(株)キビダンボール、倉敷医療生活協同組合真備歯科診療所、くるまや本舗、坂本産業(株)徳田農場、(有)山陽レジャー開発、(有)真晃建材、(特非)そーる、(合)TAKIBI、武本林業(株)、(株)テオリ、(株)ナカノ、(株)中本屋工務店、(株)永山川辺工場、(株)三ツワ、(有)ミツワ、宮本歯科医院、(有)室崎製作所、(有)山下板金、ヨシケン不動産(株)、吉田建材(株)、吉田建設(株)

社会福祉協議会へのご寄附、誠にありがとうございました。

(五十音順、敬称略)

令和7年3月1日から令和7年6月7日までに寄附いただいた皆様を掲載しています。

下記のほかに掲載を希望されない多くの方からご寄附をいただいております。

※ 税額控除対象法人へ個人で年間2,000円を超えるご寄附をされた方は、税制上の優遇が受けられます。

◇ 篤志寄附

【倉敷】 アミパラ倉敷店 (金一封)
(株)アミパラボウル (金一封)
(有)ピーエフカンパニー (金一封)
【水島】 中島 亨 (金一封)
匿名 (50,000円)
匿名 (金一封)

◇ 香典返し寄附

【倉敷】 小野 清 (金一封)
【船穂】 井上 勇 (金一封)
岡崎 聡 (金一封)
小野 洋三 (金一封)
武政 巧 (金一封)
【真備】 畑野 章治 (金一封)

◇ 物品寄附

【児島】 JFE条鋼(株)水島製造所
(行事用テント 2張)



行事用テント
贈呈式

寄附金の受付は
「窓口へのご持参」又は
「銀行振込(右記)」が
ご利用いただけます。

金融機関：中国銀行 倉敷市役所出張所 預金種目：普通

口座番号：1117198

口座名義：社会福祉法人

倉敷市社会福祉協議会
会長 中桐 泰

寄付金会計

※恐れ入りますが振込手数料は
ご負担ください。
※お振り込みいただいた方は、
倉敷市社協総務課へご連絡ください。

「話し合い」から広がる「支え合い」のまちづくり



住み慣れた地域でその人らしく、安心して生活を送ることができる「支え合いのまち」を実現するためには、そこで暮らす住民や関係者、一人ひとりの理解と協力が不可欠です。

自分のこと、家族のこと、身近なご近所さんのこと…個人の困りごとを地域の困りごととして共有し、共感しながら解決方法の「話し合い」を行うことが、これからの倉敷市の「支え合い」の活動につながります。

住民ふくし談笑会

笑顔で語る場のなかに、課題も可能性も見えてくる

現在、倉敷市では「地域でつながりだれもが安全・安心に暮らしていける支え合いのまち」を基本理念とし「第3次倉敷市地域福祉活動計画」に基づいて、地域福祉の推進に取り組んでいます。令和7年度は、この計画の最終年度にあたります。これまでの活動を振り返るとともに、令和8年度から始まる第4次計画の策定に向けて、地域の声や思いを反映することを目的として市内8か所で「住民ふくし談笑会」を開催しました。



「住民ふくし談笑会」では、参加者が地域の課題だけでなく、自分の住まわちの良いとこ自慢や地域の課題に対する解決策について、グループに分かれてアイデアを出し合いました。こうした話し合いを通じて、「みんなで一緒に計画づくりに関わること」が、策定後の活動をみんなで一緒に進めていく「参画の第一歩」となります。

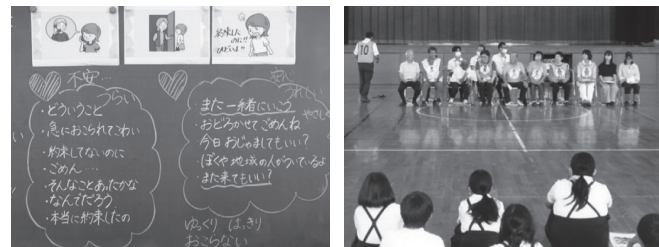


小地域ケア会議

住民×専門職で
わがまち会議

小地域ケア会議は、主に小学校区ごとに開催され、地域住民が「わがまちの課題」を共有し、その解決方法を話し合う場です。会議には、地域のさまざまな立場の住民や関係者に加えて、高齢者支援センターの職員、保健師、市社協の職員なども参加し、多様な視点から協議が行われます。

話し合われるテーマは幅広く、たとえば「認知症への理解促進」「外出支援」「防災対策」「平時からの見守り活動」など、地域の実情に応じさまざまです。話し合いを通じて見えてきた課題に対しては、地区社協が受け皿となって事業化したり、参加者同士が連携・協力して活動を進めたりするなど、単なる話し合いの場にとどまらず、地域での連携・協働の拠点として機能しています。地域住民の声が、地域の課題解決の第一歩につながっています。



小学校と連携し、認知症サポーター養成講座を実施

井戸端会議

気心知れた関係で
できること探し

話し合いの場は「会議」だけではありません。住民同士の交流は、メンバーを呼び集めて行う会議だけに限らず、日頃の何気ない交流の延長から、自然に「話し合い」が生まれることもあります。

たとえば、仲の良いサロンのメンバー同士が、お茶を飲みながら自分のことやこれからのまちについて語り合うことで、お互いを支え合う意識が高まり、新たな活動へとつながっていきます。



気の置けない仲間との会話から地域の支え合いの意識が育れます

社協が皆さんの話し合いを応援します！

地域で「今話し合われていること」「話し合いのなかで悩んでいること」「これから話し合いたい課題」など、ぜひ、倉敷市社協も一緒に考えさせてください。

地区社会福祉協議会の活動紹介

あかさき

赤崎地区社会福祉協議会（児島地区）



現在、市内には56の地区社会福祉協議会（地区社協）が設置されています。住民や様々な組織・団体の方で構成される地区社協では、地域課題の解決のために、それぞれの地域の特性に合わせた活動が行われています。今回は赤崎地区社会福祉協議会の活動を紹介します。

赤崎地区社協では「地域でつながりだれもが安全・安心に暮らしていける支え合いの赤崎まちづくりーみんなで話しあい、学びあい、支えあいー」を基本理念として、小地域福祉活動計画を策定し、計画に基づき様々な活動を行っています。その中でも「少子高齢化対策」として「子育て支援事業」と「高齢者みまもり支援事業」を2本柱として特に注力して取り組んでいます。

子育て支援事業

就園前の子どもが家庭への支援活動として、親子と一緒に集える場を提供しています。月1回のペースで料理講習会や防災研修会「ママと子どもの防災の話・非常食調理体験および実食」など、活発に活動しています。

また、折り紙遊びや親子の広場などを通して親御さんたちが情報交換しやすい環境づくりを行っています。

クリスマス会では、地区社協メンバーがサンタクロースになって、子どもたちにプレゼントを渡すなど、三世代交流の場になっています。



高齢者みまもり支援事業

高齢者が安全安心に暮らせる地域づくりを目指した事業を行っています。なかでも小学4年生を対象とした認知症キッズサポーター養成講座に毎年参加し、認知症に対する理解を深める活動をしています。

認知症の方への接し方を伝えるための寸劇では、地区社協メンバーが役者を務め、役者顔負けの名演技で、児童たちにも喜ばれています。

また、地区社協主催で婦人会を中心に行っている友愛訪問や見守り活動を通じて、地域に応じた住民同士の支え合い活動の推進をしています。



輝く人みーつけた

今回は老松地区の三宅由紀子さんをご紹介します。三宅さんは自身の介護経験をもとに、地域交流サロンとして「ボレボレハウス」を立ち上げ、みんなが過ごせる居場所づくりに取り組んでいます。

活動のきっかけ・・・

認知症の家族との同居をきっかけに、認知症カフェや家族会などに参加をしていました。しかしコロナ禍になり、人との交流ができなくなったことで、一人で介護に向き合う日々を過ごしました。介護の悩みなど打ち明けられないなかで、同じ境遇の方や介護経験のある方と介護の悩みを語り合う認知症家族の会を自身で始めることにしました。サロンの名前はスワヒリ語の「ゆっくり」を表す「ボレ」をとって、「ボレボレハウス」と名付けられました。

大切にしていること・・・

三宅さんは、サロンの参加者同士のご縁が広がるように、毎回簡単な自己紹介を行い、お互いの得意なことを褒め合いながら、お互いを気にかけて見守ることを大切にしています。サロンでは、カフェの運営や図書の貸出、ポッチャ教室、ゴミ拾いしながらのウォーキングなど、多彩な取り組みが行われています。

三宅さん自身も楽しみながら活動に参加し、世代を超えて誰もが気軽に参加しやすい雰囲気づくりに努めています。「さまざまなイベントを通じて楽しめる場と異世代交流の場を目指し、孤立感を抱える方々が、参加することでつながりを感じられる場にしていきたい」と、今後の意気込みを語ってくださいました。



三宅さんとボレボレハウスの看板犬レモン



周りの参加者も集中して、スローイングを見守ります

地域を支える赤い羽根共同募金

令和6年度 共同募金運動における全国共通助成テーマ

「つながりをたやさない社会づくり ～あなたは一人じゃない～」

社会には支援が届きにくい困難を抱える人々がいます。赤い羽根共同募金は、地域福祉の課題に取り組む民間団体を応援し「じぶんの町を良くするしくみ。」として、さまざまな取り組みに対して助成金を配分しています。倉敷市内の助成金を活用した取り組みの一部をご紹介します。



みんなの楽しい居場所を目指す

ごはんプラス

豊洲地区で、食を通じて子どもたちを支援することを目的としてはじめた、こども食堂を行っているボランティア団体です。

プラスになる居場所に

「ごはんプラス」では、単にごはんを食べるだけでなく、参加者が好きな「プラスの活動」も楽しんでほしいという思いから、この名前がつけられました。実際に参加した子どもたちは、みなでごはんを食べた後、歌を歌ったり遊んだり、自分のしたいことをして楽しく過ごしています。

助成金を活用してイベントにプラスを

団体スタッフが倉敷市社協を訪れた際、活動に活用できる共同募金の助成金募集があることを知り、応募しました。まずは地域の方々にこども食堂を知ってもらうため、イベントチラシの作成費用として助成金を活用しました。チラシは多くの地域の方に来てもらえるよう、デザインにこだわりました。さらに、イベントの内容についてメンバーからたくさんアイデアが出され、助成金により運営費用が増えたことで、できなかったことにも取り組んでみようという意欲が生まれました。

地域にとってのプラスに

イベントは助成金を活用してスタッフのアイデアをふんだんに取り入れたものになりました。カフェでは、地元の和菓子店や洋菓子店から購入したどら焼きや焼き菓子をお抹茶とともに提供しました。また、手作りアートコーナーやミツロウキャンドルづくり、ポッチャなど、これまでできなかった楽しい内容になりました。チラシを見た地域の方が「ポッチャをやりたい」と立ち寄ってくれたほか、参加した中学生が「次回はボランティアとして参加したい」と、活動に関心を持ってくれました。イベント中は、参加者もスタッフも笑顔と笑い声のあふれる、素敵な時間が流れていました。



これからもみんなのプラスになるために・・・

ごはんプラスの小原さんは「助成金を活用することで、イベントの内容にこれまで以上の広がり生まれ、本当に楽しいイベントを開催することができました。地域のつながりを意識し、地元の店舗などにも協力していただくことで、地域の良さを改めて知ってもらうきっかけにもなったと思います。これからも、参加者も主催者も“楽しい”と感じられるような企画を考えていきたいです。助成金を申請して本当に良かったです」と話してくださいました。助成金の活用によって活動がより充実し、内容の幅も広がることで、主催者だけでなく参加者にとっても“プラス”となる取り組みにつながっています。



地域の皆様の心の拠り所に

川辺復興プロジェクト あるく

真備町川辺地区で、平成30年7月豪雨災害によってバラバラになった被災住民のつながりづくり、そして心の拠り所となる居場所づくりと生きがいづくりを目的にした団体です。また、豪雨災害での経験や教訓を伝える防災・減災の活動にも取り組まれています。

被災後、住民で立ち上がった団体

平成30年7月豪雨災害の後、代表の植原さんが炊き出しボランティアの受け入れを行う中で、同じく被災した仲間たちが集まり、共に活動するメンバーが徐々に増えていきました。「地域のためにできることをしたい」という思いから、支援物資の仕分けなどの活動を行い、やがて任意団体が立ち上がりました。

居場所づくり経費の一部に助成金を活用

真備のまちはすっかり復興したかのように見えますが、生活や雨への不安など、災害の影響は今も住民の心に強く残っています。そのため、地域の方が安心して集える“心の拠り所”としての居場所づくりが、現在も大切に続けられています。この活動の一部には、「赤い羽根共同募金ボランティア団体・NPO活動支援事業」の助成金が活用されており、助成金の活用によって新たな活動への取り組みが生まれ、新たな参加者が集うきっかけにもつながっています。

サロンに集中し楽しく過ごせる居場所

サロンでは、リラックスヨガや小物づくりの会、癒しサロンの会、防災カフェなど、毎月7～9回にわたり多彩なサロン活動を継続的にを行っています。リラックスヨガでは呼吸と体の動きに集中し、癒しサロンの会ではアロマやハンドトリートメントを行っており、心身ともにストレス解消ができます。また、小物づくりの会では、ものづくりをしながら、参加者同士のおしゃべりが弾み、仲間とのつながりが自然と生まれる場となっています。これらの活動を重ねる中で、参加者同士の信頼関係が深まり、被災当時の思いや経験を打ち明け合うことができる、心の支えとなる居場所へと発展しています。

これからも地域の方の心の拠り所となれるように

副代表の松田さんは、「これからも地域の方の心の拠り所、生きがいづくりとなる活動を継続し、被災後にいただいたご恩を“つながり”という形でお返しできるようにしていきたい」と話してくださいました。今後も、助成金などの資源を活用しながら、住民同士のつながりを深め、防災活動にも積極的に取り組んでいきます。



助成金情報は
こちらから♪

